

JMCC通信

VOL.60

発行日/2025年 9月吉日 発行/日本医療介護協同組合 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町一丁目4番地8号 <https://jmcc.or.jp/>

2027年で制度終了 — 今こそ行動のラストチャンス

介護現場の人手不足は深刻です。令和6年度「介護労働実態調査」では、訪問介護員・介護職員の離職率は12.4%で2年連続低下した一方で、採用率は14.3%と3年ぶりに下がりました。さらに、事業所の65.2%が人手不足と感じています。

そんな中、技能実習制度は2027年で終了予定。残された時間はわずかです。今こそ制度を活用して安定した外国人人材を確保しましょう。



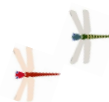
3年間の定着で安定した人材確保

技能実習制度の最大の魅力は「3年間働くことが前提」です。採用が難しい今、3年間は確実に働く人材がいることは大きな安心です。さらに、若く体力のある明るい外国人材は介護現場で長く活躍してもらいやすく、現場を支える力として大きなメリットになります。



特定技能・介護福祉士へのキャリアパス

技能実習を終えた人材は、特定技能への移行がスムーズです。介護技術や日本語を身につけているので、即戦力として現場で活躍できます。中には介護福祉士国家資格を目指す人もおり、将来的に施設を支える中心的人材になる可能性もあります。



ロールモデルと受入れ体制づくり

技能実習生を受け入れることで、施設内に外国人口ロールモデルを作り、受入れ体制を整えることも可能です。先輩として活躍する外国人介護人材がいることで、後から来る特定技能や育成就労者の教育もスムーズになります。

今がラストチャンス

介護現場の人手不足は待ったなしです。制度が終わる前の今、技能実習を活用することで、安定した定着・即戦力化・若手人材の確保・将来の中核人材育成を同時に実現できるのは今だけ。制度終了前に行動し、未来の人材基盤をしっかりと確保しましょう。



技能実習制度を活用できるラストチャンスは、今しかありません。行動するのは“今”です。



技能実習から特定技能へ！同じ施設で働き続ける理由とは？

ある施設の技能実習から特定技能に在留資格を変更した外国人介護職員にインタビューしました。なぜ同じ施設で働き続けることを選んだのでしょうか？

- 日本に来た時お世話になったので、恩返しをしたい
- 職場の人間関係が良い
- 介護福祉士の勉強をするには、他の施設に移るより効率的
- 新しい職場で仕事や人間関係を一から始めるのは大変
- 他の施設への移動手続きが面倒



ゆっくりやさしく話してくれるのが嬉しいです



インドネシアの技能実習生が入国！

現場に新しい風



インドネシアから技能実習生が日本に到着しました。若く元気な彼女らが現場に加われば、ちょっとした“新しい風”が吹き込まれるでしょう。

空港からそのまま**研修センターへ送迎**。1か月間、日本での生活や介護の基本を学びます。現場に入る前にしっかり準備できるので安心です。

初日は少し緊張していましたが、笑顔で挨拶したり積極的に質問したりする姿が印象的。



成田空港に無事到着



研修センターに到着

介護スタッフが高齢化する中、**若く体力のある実習生**は大きな戦力。移動や入浴介助など、体力が必要な仕事も安心して任せられます。今後の後輩外国人の手本や、施設の受入れ体制づくりにも役立つ、頼もしい存在です。

組合はそんな彼女たちを応援し続けます。



お問い合わせは
こちらへ



日本医療介護協同組合 <https://jmcc.or.jp/>

〒101-0055 東京都千代田区神田錦町1丁目4番地8号
ブロードビル B1F

TEL 03-3221-7010

有料職業紹介事業許可番号 13-ユ-311547
監理団体許可番号 許1804000187
登録支援機関登録番号 20登-003476

